いすによる事故

製品評価技術基盤機構（ＮＩＴＥ）
中国支所　TEL：082-211-0411

ＮＩＴＥに集約される製品安全に関する情報

製品評価技術基盤機構（ＮＩＴＥ）では、ＮＩＴＥに集約される製品安全に関する情報を製品事故の未然・再発防止の観点から、製品安全情報マガジン（ＰＳマガジン）によってタイムリーに提供しています。

今回は、いすによる注意していただきたい事故事例を御紹介します。

事例１　【組み立て時の不備により破損】

浴室用いすを使用中、脚パイプが破損し、転倒した際に扉のガラスにぶつかったため、破損したガラスで背中や腕に裂傷を負った。

事故品を組み立てる際、脚パイプを座面に固定するネジの締め付けが十分でなかったことから、使用によりネジが緩み、脚パイプのがたつきが拡大して亀裂が入り破損に至ったものと推定されます。

事例２　【折りたたみいすの可動部への挟み込み】

子供が折りたたんで置いていた折りたたみいすのフレーム部分に指を挟み、裂傷を負った。

折りたたんで水平に置かれていた椅子を、子供が脚フレームを持ち上げるなどして遊んでいた際、持ち上がった座面に座ってしまったため、連動した脚フレームが閉じ、交差部分で指を挟んだものと推定されます。

事例３　【一部分への荷重集中による破損】

介護施設で使用していたいすの肘掛けが折れ、座っていた要介護者がバランスを崩した。

約７年間、取扱説明書に記載された誤った使用方法（人を座らせたままいすを移動）を行ったことにより、座面と脚の接着面が耐えきれずガタが生じ、その影響で肘部の杖掛け部に荷重が集中し、最終的に材料が破断したものと推定されます。

◇事例１のように、使用者自身で組み立てるいすで、ネジの締め付けが不十分だったために、事故に至ることがあります。いすを組み立てる際は取扱説明書をしっかり読んで指示通りに組み立て、ネジはしっかりと締めてください。また、既成品でも少しでもぐらつきなどを感じたら、ネジなどが緩んでいないか等確認して、そのままの状態での使用はやめてください。

◇事例２のように、折りたたみいすの可動部に指などを挟む事故が起きています。可動部があるいすは取り扱いに注意してください。また、乳幼児による事故が多いので、遊んだりしないよう、目を離さないようにしてください。

◇事例３のように、誤った使用により一部分に荷重がかかりそこから材料が破断して事故になることがあります。偏って座ったり踏み台代わりにするなどいすの一部分に負担がかかるような使用はやめてください。

Copyright 2013 Chugoku Bureau of Economy , Trade and Industry.